

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の 방법으로評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成29年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成29年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会をはじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者: 大石健二

作成日: 平成30年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計): 8

(1). 教育理念・目標

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 0 | 0 | 0 |
| ②学校における職業教育の特色は明確になっているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 2 | 0 | 0 |

①課題

全体としては、「適切～ほぼ適切」と評価された。平成28年度での自己点検・自己評価と比較すると「適切」の評価が増えており、前回評価時の課題は改善されたものとする。

項目④「学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」について、平成28年度の評価時に課題として、保護者ガイダンスの短時間の中で「学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想」を伝達するためには分かりやすい説明資料作成が必要であるとの指摘が挙がったため、丁寧な説明を入れた配布資料を作成し、改善を進めている。しかし、保護者ガイダンスの参加者数が低迷したこともあり、いかにして多くの保護者ガイダンスに参加していただくかが今後の課題である。

項目⑤「各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」について、平成29年度の評価としては「やや不適切」「不適切」の評価は無かったものの、業界のニーズを把握することは継続して行っていかなければならず、その方法の検討を今後も続けていく。

②今後の改善方策

保護者ガイダンスの参加率を上げるための改善策として、入学前の時点で入学予定者及びその保護者にもアナウンスし、保護者ガイダンス実施日を強調して告知することとする。これは、入学式に関する案内文の中に記載されるだけでは、保護者のガイダンス参加意識が薄い可能性があるためである。また、1日だけの実施では保護者の都合が合わない可能性もあるため、進級年度生向けの保護者ガイダンスを行うなどして、実施機会を増やし、トータルでの参加率を上げたいところである。

業界のニーズの把握方法として、これまで説明会実施等の機会を増やすことで学生の志望先関係者との接触を実現し対応を図ってきたが、それだけでは現場の声よりも採用担当者の意見に偏ってしまう傾向がある。今後は、卒業生のその後を知る上でも、可能な限り卒業生の任用先を訪問し、働く現場の声を集めていきたい。

③特記事項

平成28年度の課題の中に「公務員試験合格を目指す当該学科においては、中立性・公平性を保つ公務員との密な関係を構築することが事実上困難であり、職業教育・業界のニーズに合わせた教育を施すということに対して満足できていない。」との指摘があった。これに対し、「学内における官公庁説明会の開催、官公署における説明会への参加、官公署見学等、採用担当者等の業界関係者と学生が直接対話できる機会の増加を図りたい。また、公的な研修の機会があれば積極的に参加していきたい。」との改善案を挙げ、実際に官公庁説明会や官公署見学等の機会を増やして実施したことで、その改善が図られたものとする。平成30年度においても継続して行う予定である。

学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などについては、入学直後に1年制課程・2年制課程合同で実施する新入生研修の中で詳しく説明し、伝達している。また、日々のホームルームにおいても繰り返し確認を行い、学生が目標達成できるよう指導している。

(2). 学校運営

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①目的等に沿った運営方針が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 2 | 0 | 0 |
| ④人事、給与に関する規程等は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 2 | 0 | 0 |
| ⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 3 | 2 | 0 |

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」の項目は、「やや不適切」との評価が今回評価時より増える結果となった。その要因として、平成29年度より学生管理システムが刷新されたが、旧システムを使いながら同時に新システムのチェックを行わざるを得ず、その為、重複作業が発生してしまい、かえって非効率となってしまった点が挙げられる。ただ、新システムへの移行が無事に終わっており、今後は効率化が図られていくものと考えられる。

一方、新システム導入に当たり職員間の情報システムに対するリテラシーの差が顕著となった。多くの場合、新システムの導入は効率化が目的であるが、リテラシーの低い教職員が作業を行うと、かえって非効率化を招くことがある。教職員の知識・技術をどう向上させるかが今後の課題である。

前回評価時に改善方策として「情報技術の知識習得のため資格試験受験の啓蒙を行ってきたが、一部の教員のみでの取得にとどまってしまったため、他の教員も受験、取得の機会を増やしていきたい」と掲げたが、残念ながら達成されていない。

②今後の改善方策

日々多忙な業務の中で資格取得により知識を高めるためには、各自が計画を立て継続的に勉強を行わなければならない。そのため、自己の目標を掲げ実行すべく、それぞれの職員の取得済み資格を点数化し、視覚化を行うことにより、現状と今後必要となる資格等について理解したうえで、それに基づいた自己計画表の作成を行っている。その後、その計画を基に上司との面談を行い、アドバイスをもらうという制度を導入したが、実際に資格取得を達成した者は少ない。今後は、各教員が受験にチャレンジできるよう更なる指導、指示を上司が行うこととする。そして、年度途中での定期的な確認も怠らないよう進めていく。

③特記事項

教育活動等に関する情報公開については、引き続き学校案内書、ホームページ掲載を行う他、個人情報保護等を意識したうえで、校舎内のホールにイベント情報や写真など実際の様子が伝わる内容を掲示することにより本学生のみならず社会人講座受講生や来校者にも広く公開する。

学校情報、財務情報、学校関係者評価、自己点検評価については当学園ホームページ上に適切に公開している。また、学園理事会、評議員会についても適切に開催され、学校運営状況が報告されている。さらに、人事・給与に関する規程等は就業規則に明記されており、教職員はいつでも確認が取れる状態である。

(3). 教育活動

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 1 | 0 |
| ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 4 | 0 | 0 |
| ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 1 | 0 |
| ⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 1 | 0 |
| ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 3 | 2 | 0 |
| ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 2 | 0 | 0 |
| ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 1 | 0 |
| ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 5 | 0 | 0 |
| ⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 3 | 1 | 0 |
| ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 4 | 0 | 0 |
| ⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 4 | 0 | 0 |

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、平成28年度と比較して大きな変化がなく、改善が思ったほど進んでいない。逆に「やや不適切」の評価が増えた項目も見られる。

これは、学生の基礎学力の低下に対して、今以上に迅速に対応する必要があるとの指摘によるものである。この点が、「②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか」「⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか」の項目で指摘された。

また、「⑦授業評価の実施・評価体制はあるか」に関して、平成29年度は全教員に対する授業評価は実施できなかった。

更に、教員に対する研修の機会は増加したが、内容の充実・再検討が必要ではないかという指摘もあり、「⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか」「⑭職員的能力開発のための研修等が行われているか」の項目で「適切」「ほぼ適切」の比率が分かれる結果となった。

②今後の改善方策

学生の基礎学力低下についてはミニテストなどの実施で状況把握を行い、補講や宿題によって対応をする。当学園の特徴でもあるオリジナルの学生手帳を使った自己管理によってモチベーションを持続させ、日々改善しながら自己目標計画を達成させる。

カリキュラムの作成・見直しは業界のニーズに合わせるため、引き続き教育課程編成委員会の意見を参考に進めるとともに、関連業界への接触を積極的に行っていく。

可能であれば卒業生に連絡を取り、卒業生からのアドバイスも参考に取り入れていく。

③特記事項

平成30年度は役職別の研修を学園内で実施することとなった。グループ内の教職員が協力し合うことによりスケールメリットを発揮し、多くの教員の経験、知識を取り入れ学生指導に役立てていく。

また、教職員は年度初めに計画した個人計画書に基づき定期的な上司・先輩からのアドバイスを受け、資格取得、業務能力向上を図る。

教育活動の項目が学校の生命線と捉え、教職員全員が高い志を持って業務にあたる所存である。

(4). 学修成果

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---------------------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①就職率の向上が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 2 | 2 | 0 |
| ②資格取得率の向上が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 1 | 0 |
| ③退学率の低減が図られているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 1 | 0 |
| ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 2 | 1 | 0 |

①課題

平成28年度と比較し、「①就職率の向上が図られているか」「②資格取得率の向上が図られているか」の項目で「やや不適切」との評価が増加した。ここでの指摘としては、学生の基礎学力低下に対する対応が十分でないということである。例年通りのカリキュラムで学園統一の教材を使用しているが、それだけでは対応できないときもある。今後は、学生の基礎学力を向上させるプログラムの検討が必要である。

一方で、平成28年度も指摘された「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」の項目については、卒業生の就職先との連携が必要となることであり、まだ実現には至っていない。

②今後の改善方策

基礎学力を向上させるプログラムについてであるが、これまで学生の学力向上について担任に一任していた面が強かったと反省している。テキスト・ミニテスト・模擬試験など教材は十分整っているが、それらを有効に活用できていなかったことも反省点の1つである。今後は、校内試験や模擬試験が行われた際には学生の成績に関する情報を教員で共有し、必要と判断した場合は補講等を実施することで対応を図る。また、科目の担当教員が個々の学生の学力チェックを行うなど細かな対応を行っていく。更に、授業のみで学力向上を図ることはできないため、放課後学習、自宅学習の重要性を伝えているが、自宅学習時間を十分確保できていない学生が多いのが実状である。これは、学生自身に自己管理能力がまだ備わっていないことが要因であると考え。そのため、今後も引き続き自己管理能力を身につけさせる指導を行い、今まで以上に自宅学習の重要性を認識させたい。

卒業生の状況については、業界ニーズを把握する上でも重要なことであるため、任用先への訪問などを実施する。また、各担任は卒業後あまり期間を置かないうちにメール等で現況の把握に努め、極力連絡が途絶えないよう努力する。

③特記事項

項目③「退学率の低減が図られているか」が以前は重要課題となっていたが、急激に改善され、評価もほぼ「適切」となった。改善された要因の1つには、入学当初から教員が個々の学生に向けて丁寧に指導・説明をすることにより、学生の在学目的を「公務員試験に合格すること」から「社会に出て活躍できる人材になること」とする意識改革に成功したことが考えられる。これにより、公務員試験の結果が出た後も卒業まで在籍し、社会で役立つ知識を身につける意欲が持続したものと自負している。

また、以前と異なり、現在はほとんどの採用先で卒業生と退学者とでは給与面で差があるため、現実的な卒業のメリット・退学のデメリットについての情報を伝えることで学生本人及び保護者の理解を得られるようになった。

更に、学生同士が協調性をもって学生生活を送るようになり、クラス内で良好な人間関係を構築していることも退学率低減につながったものと考え。

(5). 学生支援

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ②学生相談に関する体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 0 | 0 | 0 |
| ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 0 | 0 | 0 |
| ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 2 | 6 | 0 | 0 |
| ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ⑥学生の生活環境への支援は行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ⑦保護者と適切に連携しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 0 | 0 | 0 |
| ⑧卒業生への支援体制はあるか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 0 | 0 | 0 |
| ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 0 | 0 | 0 |

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。平成28年度と比較し、特に「①進路・就職に関する支援体制は整備されているか」「②学生相談に関する体制は整備されているか」「③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」「⑦保護者と適切に連携しているか」の項目は「適切」との評価が増えた。

しかし、「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」「⑥学生の生活環境への支援は行われているか」の項目については「適切」と「やや適切」に大きく分かれる結果となった。

「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」については、学校内に設置されている保健室の設備充実を求める意見が挙がった。どこまで充実させるのか、今後検討が必要である。

②今後の改善方策

項目④「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」で挙げられた保健室の設備充実についてであるが、応急処置を行う設備は整っているため、現在でも十分であると考えられる。今後は、同地区の2校と協議し、緊急時連絡用ブザー等更なる設備充実に向けた検討を行うこととする。

項目⑥「学生の生活環境への支援は行われているか」については、担任だけに任せるのではなく、早い段階で教務責任者も関わり、学生と話をしながら本人にとって一番よい方法をアドバイスしていく。また、学生指導上有意義な知識を身につけるため、教員にはメンタルケアやコーチングを学ぶ勉強会を開催する所存である。

メンタル面の対応は専門家による講習会を行い、学校として何ができるかを考えていきたい。

③特記事項

進路・就職に関する支援体制については、公務員受験に向けた支援はもちろんのこと、民間就職へ切り替えた学生に対しても就職活動の指導・支援を行っている。

学生相談に関する体制については、以前はクラス担任のみが対応することが多かったが、現在は、学科の教員全員がどのクラスの学生でも相談にのる体制が整い、改善が図られている。

保護者との連携については、遅刻、欠席が目立つなど問題行動の見られる学生がいた場合、適宜担任から保護者に連絡し、家庭内での指導・協力も仰ぐなど、連携できている。また、保護者ガイダンスなどにおいても家庭内指導等の協力を求めている。

卒業生への支援体制については、当校卒業後に資格取得を目指す者に対して社会人講座の受講料を割り引く「卒業生割引制度」や兄弟姉妹が当校へ入学する際に授業料を一部免除する「兄弟姉妹等特別奨学生制度」等により支援している。

社会人への教育環境の整備については、様々な資格取得を目指す社会人講座を開講することで働きながら学べる体制を整備している。講義だけでなく個別面接対策なども行い、新たな就職活動の支援も行い、実績を残している。

高校・高等専修学校等との連携については、高校内ガイダンス、大学内説明会、夏期無料講習会、無料公開模擬試験の実施などにより連携を図っている。

(6). 教育環境

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 1 | 2 | 0 |
| ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 3 | 4 | 1 | 0 |
| ③防災に対する体制は整備されているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 0 | 2 | 0 |

①課題

評価項目の全てにおいて「やや不適切」の評価意見があった。
 項目①「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」については、エレベーター設置がないことや、校舎の築年数の経過による老朽化が否めず、それに伴い不具合が生じている箇所があることに対する指摘である。エレベーターについては開校時の設置基準には適合しており問題はないものの、教員としては十分ではないと感じているようだ。しかし、現状では対応できないため、改善は難しい。
 項目②「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」については海外研修を実施していないとの指摘である。海外研修については学生・家庭の経済的負担を考えると研修費の追加徴収は現実的でないため、実施は難しい。
 項目③「防災に対する体制は整備されているか」の項目については非常食、非常寝具等の準備不足と防災訓練の実施内容について改善の余地があるとの指摘であった。

②今後の改善方策

校舎の施設・設備については、改善可能なものについては引き続き、教育上の必要性を基準として優先順位を付け、整備や取り換えを行っていく。

海外研修については、学生の経済的負担を考えると直ちに実施することは難しい。当学園で設けている「海外研修旅行支援制度(オーバーシーズ・プログラム)」を紹介・啓蒙し、当該制度の活用を推進する。

③特記事項

築年数の経過による校舎の老朽化もあり、最新鋭の設備が整っているわけではないが、教職員、学生によって清掃を行い、快適さを維持している。

エレベーターの設置はされていないが、障がい者の方に対しては教員が自主的にサービス介助士の資格を取得し、介助技術を身につけており、対応できる環境になっている。

防災に関して、現在は各教室に避難経路図を掲示するとともに、避難地までの経路を実際に歩いて説明・確認している。平成29年度においてはミサイル飛来に関する対策の検討もいち早く行い、学生の誘導方法などを話し合った。その内容を学生へ説明するとともに、学生の目に留まる場所に対応方法を掲示している。

また、非常食については、携帯食と水のペットボトルを保健室に保管している。

更に、教員の一部は防災士の資格を取得し、教員、学生へ防災意識の啓蒙を行っている。

(7). 学生の受入れ募集

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|------------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①学生募集活動は、適正に行われているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 2 | 0 | 0 |
| ③学納金は妥当なものとなっているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 0 | 0 | 0 |

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価され、平成28年度よりも「適切」の評価が増えた。

学生募集活動の大半が高校内で行われるガイダンスである。このガイダンスは高校生自身がガイダンス参加時点で興味を持っている学校・学科について説明を聞くものであり、本人に興味がない場合には当校との接触は難しいのが現状である。しかし実際は、当初本人に関心のない業界であっても担当者から具体的な話を聞くことによってその業界に関心を持つ場合がある。また高校内での説明だけでなく、実際に当校へ足を運んでもらい、当校主催の説明会に参加することにより当校への関心を持つ場合もある。そのため、高校生等に対して業界・職種・当校の特色を伝える機会を多く設けることが必要であると考えられる。

②今後の改善方策

従来より、学校説明会や体験入学会の際に、SA(スチューデント・アシスタント)として選ばれた在校生が入学希望者と直接接する機会を設けている。同世代の在校生が実体験を直接話すことで、より正確な情報を伝えることができ、また入学希望者の精神的な壁や緊張を軽減できる等の効果が出ている。

今後は、パンフレット等の文面だけでは表現できない内容を在校生を通じて伝達するべく、SAである在校生のトーク術・対応力向上を図るための指導を丁寧に行うこととする。

③特記事項

項目②「学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか」において、「適切」～「ほぼ適切」と評価された。その要因として、学校説明会はクラス担任として実際に学生を指導している教員が行うとともに、上述の通り、SAである在校生が学生の視点から生の声を入学希望者に伝えることによって正確さが出ていることが挙げられる。

また、校内に公務員試験合格者の顔写真入りの掲示物を掲示することで入学後・合格後の進路がイメージし易くなっている。

項目①「学生募集活動は、適正に行われているか」、項目③「学納金は妥当なものとなっているか」については、学生募集活動で使用する入学案内パンフレットを作成し、学校説明会や体験入学会の開催日、カリキュラムの例示、就職実績、卒業生の活躍状況、学内イベント、学園の独自制度、出願手続きに関し、具体的に記載するとともに、入学金、授業料、維持費、研修教材費の学納金に関しても金額を明記している。

学納金は、入学金、授業料、維持費、研修教材費で構成されており、また、納付方法は一括納付だけでなく分割納付方法も複数用意し、納入方法6パターンの中から選択できることとしている。これにより学生及び保護者の経済的負担の軽減を図っている。

(8). 財務

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|---------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| ①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 8 | 0 | 0 | 0 |
| ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 8 | 0 | 0 | 0 |
| ③財務について会計監査が適切に行われているか | 8 | 0 | 0 | 0 |
| ④財務情報公開の体制整備はできているか | 8 | 0 | 0 | 0 |

①課題

すべての項目で「適切」と評価された。

②今後の改善方策

ホームページ上にて財務情報の公開が行われている。また、財務状態についても問題はないものと判断する。

今後も安定的な経営を行うべく、学生募集人数の増加を目指し、積極的な募集活動を行っていく。そのために、入学希望者のニーズと業界・採用側のニーズにマッチする教育内容・指導方法を引き続き検討する。教職員は、時代の変化に即応できる柔軟さをもって、常に新しい情報を収集し、募集活動へ反映させることとする。

③特記事項

当学園は借入金もなく、安定した経営となっている。予算、収支計画は理事会、評議員会の承認も受け、実行されている。

また、決算結果である資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表その他必要な財務諸表については、行政官庁へ提出を行っている。

(9). 法令等の遵守

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--------------------------------|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |
| ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 4 | 0 | 0 |
| ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 5 | 3 | 0 | 0 |
| ④自己評価結果を公開しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 7 | 1 | 0 | 0 |

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

平成28年度と比較し、「適切」と「ほぼ適切」の評価比率に大きく改善された項目はなかった。

特に課題として挙げるべき項目が「②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」である。「ほぼ適切」の評価が他に比べ多いが、これは個人情報保護に関して対策はとられているものの、完璧ではないと考えている評価者がいることを示している。個人情報保護体制は整っており、世間一般的なレベルには到達しているが、教職員の意識を高め続けていないと「適切」レベルを維持できなくなるであろうとの危機意識からである。

以前は情報管理に関する教職員研修を行っていたが近年は実施されていない。教職員研修実施に代えて「情報セキュリティマネジメント試験」の受験を推奨したが、実際に受験する者は少なかった。個人情報保護については組織存続にも影響を与える重要な課題であるため、平成30年度は再度教職員の意識を高めていく所存である。

②今後の改善方策

上記課題にて記載したが、個人情報の取扱いに対する意識を維持・向上させるため、今年度も引き続き啓蒙を行うほか、教職員に対して「情報セキュリティマネジメント」の取得を推奨することとする。

「メール等で個人情報を送信する場合は必ずパスワードを設定する」「定期的に個人情報に関する校内規定の再確認を行う」など基本的なことほど確実にを行う。

「③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」の項目については、他人任せではなく教職員全員が一致協力をし、平成29年度から設置されている企画推進部会の指導のもと、問題点の改善を着実に進めていく。

自己評価結果は例年通り、学校評価委員会開催後、ホームページで公開する。

③特記事項

項目①にある「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営」については、問題がないと自負している。しかし、新入教員への説明等ができていなかったことにより「ほぼ適切」と評価されたことを反省し、今後は、新しく採用される教員に対し、専修学校設置基準等の説明を行うこととする。

当学園は、教育基本法、専修学校設置基準を遵守し、また、個人情報保護法に基づく個人情報保護規則の整備も行い、適正に運営している。

(10). 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | 評価数値の分布 | | | |
|--|---------------------------|------|-------|-----|
| | 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1 | | | |
| ①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 6 | 2 | 0 | 0 |
| ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 4 | 4 | 0 | 0 |
| ③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 適切 | ほぼ適切 | やや不適切 | 不適切 |
| | 8 | 0 | 0 | 0 |

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

「①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」の項目では、職員の認識の差異により「ほぼ適切」との評価が出ている。入社歴の浅い職員の中には、当学園が行っている附帯授業の社会人講座を社会貢献、地域貢献と捉えていない者がおり、無料で施設を開放したり、無料の講座を行うことだけが社会貢献、地域貢献と考えてしまったようだ。ただ、このことは、近隣住民も同様に考えている可能性がある。現在実施している社会人講座や人間学を学ぶ講座等も社会貢献の一環であることを分かりやすく伝えていきたい。

「②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか」の項目は「適切：やや適切 = 1:1」の比率となっている。平成29年度の1年生は全員がボランティア活動の実施を行い、大多数が継続できていた。クラス間での差が出ている点については指導・支援する教員の意識の差が現れていると考える。教員間の意識の差を無くすための対策が必要である。

②今後の改善方策

上述の通り、学生のボランティア活動を単発的なものから継続的なものへ移行しているところである。今後はさらに、自身のボランティア経験・体験をプレゼンテーションの授業の中で発表する機会を設けることにより、単に「ボランティア経験がある」というだけでなく、就職活動・就職後の職務・人生に役立つようなレベルにまで学生の意識を変えていく。また、将来的には知識面の充実も図るため、ボランティア概論などの授業も取り入れることを検討している。

③特記事項

現在既に附帯事業として社会人向け講座を行っている。これは「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」に該当するものである。今後も講座内容を検討しながら社会のニーズに合わせたものを展開し、社会貢献を行っていく所存である。

平成28年度までは学生のボランティア活動は単発的なものが多かった。平成29年度では1回限りではなく、継続的に行うように指導した。継続的に行うことで、学生もその活動のメリット・デメリット、改善項目などを考えて行動できるようになった。